

障がいと人権 こんな時、あなたならどうしますか？

○障がいは多種多様

障がいには、生まれた時からの障がいの人もいれば、病気や事故などによって障がいを受けることもあります。その中には、聴覚障害や※内部障害、精神障害など外見からでは分からない障がいもあります。障がいは、誰にとっても身近なことです。もし、困っている人や※ヘルプマークを付けている人を見かけたら、あなたならどのような行動をとりますか？

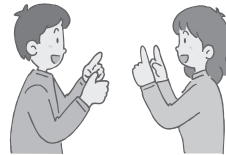
街中で息切れして苦しそうな人がいたら。

杖を使っている人が、段差や坂の前で立ち止まっていたら。

人の多く集まった所でパニックになっている人がいたら。

車いすの人が高い棚の商品を取ろうとしていたら。

避難するアナウンスが流れているが、耳の悪い人がいたら。



○配慮・支援のヒント

・手助けしてほしいことは人それぞれです。

「何かお困りですか？」と優しくゆっくり声をかけて(相手に伝わっているかを確認しながら)、『何を、どのように手助けしてほしいのか』を話してもらいましょう。

発作やパニックを起こし臨機応変な対応が困難な人や、立ち上がる・歩行などの動作が困難な人がいます。

・バスや電車の優先席でなくても席を譲りましょう。

健康そうに見えても疲れやすい人や、麻痺の影響で体のバランスを崩しやすい人がいます。

・安全に避難するための支援をしましょう。

聴覚障害や、視覚障害のため状況判断が難しい人、肢体に障がいがあり自分で迅速な移動が困難な人がいます。

・『お互い様』という自然な気持ちで助け合いましょう。

特別な目で見ることや同情するのではなく、その人のためになるお手伝いをしましょう。

※内部障害…心臓や呼吸器、ぼうこう、直腸、腎臓などの内臓の働きが低下しているため、体力が低下し日々の生活に困っていることがあります。

※ヘルプマーク…外見からでは、障がいや難病のあることが分かりにくい人が、周りの人に困っていたら助けてほしいと知らせるマークです。

みんなが幸せに暮らすために、お互いの違いを認め合い、

真のバリアフリーを目指しましょう！

▶問い合わせ先=生涯学習課 生涯学習係 ☎(56)9159



ヘルプマーク

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、施設の臨時休館又は、イベントを中止することがありますのでご理解願います。